

かちかち山

楠山正雄 さく

—

むかし、むかし、あるところに、おじいさんとおばあさんが
 がありました。おじいさんがいつも畑はたけに出て働はたらいています
 と、裏うらの山から一ぴきの古ふるだぬきが出てきて、おじいさんが
 せっかく丹精たんせいをしてこしらえた畑はたけのものを荒あらした上に、ど
 んどん石いしころや土つちくれをおじいさんのうしろから投げつけま
 した。おじいさんがおこって追おっかけますと、すばやく逃にげ

て行ってしまいます。

しばらくするとまたやって

来きて、あいかわらず

いたずらをしました。

おじいさんも困こまりきって、

わなをかけておきますと、

ある日、たぬきはとうとう

そのわなにかかりました。

おじいさんは躍おどり

上あがって喜よろこびました。

「ああいい気味きだ。



かちかち山

楠山正雄 さく

—

むかし、むかし、あるところ
に、おじいさんとおばあさん
がありました。おじいさん
がいつも畑はたけに出て働はたらいていま
すと、裏うらの山から一いびきの古ふる
だぬきが出てきて、

おじいさんがせつつかく丹精たんせいを
してこしらえた畑はたけのものを荒あ
らした上に、どんどん石いしころ
や土つちくれをおじいさんのうし
ろから投げなつけました。おじ
いさんがおこって追おっかけ
ますと、すばやく逃にげて行っ
てしまいます。しばらくする

とまたやって来て、あいかわ
らずいたずらをしました。お
じいさんも困こまりきって、わな
をかけておきますと、ある日、
たぬきはとうとうそのわなに
かかりました。

おじいさんは躍おどり上あがって
喜びよろこびました。

「ああいい気味きだ。とうとう
つかまえてやった。」

こう言いって、たぬきの四よつ



かちかち山

楠山正雄 さく

むかし、むかし、あるところに、おじいさんとお
 ばあさんがありました。おじいさんがいつも畑はたけに出
 て働はたらいていますと、裏うらの山から一ひとびきの古ふるだぬきが
 出てきて、おじいさんがせたんっかく丹精たんせいをしてこしら
 えた畑はたけのものを荒あらした上に、どいんどん石いしころや土つち



くれをおじいさんのうしろ
 から投なげつけました。
 おじいさんがおこって
 追おっかけますと、すばやく
 逃にげて行ってしまいました。
 しばらくするとまたやって
 来きて、あいかわらず
 いたずらをしました。
 おじいさんも困こまりきって、
 わなをかけておきますと、



ジャックと豆の木

楠山正雄 さく

—

むかしむかし、イギリスの大昔、アルフレッド大王の御代のことでございます。ロンドンの都からとおくはなれたいなかのこやに、やもめの女のひとが、ちいさいむすこのジャックをあいてに、さびしくくらししていました。かけがえのないひとりむすこですし、それに、ずいぶんのんきで、ずぼらで、

なまけものでしたが、ほんとうは気だてのやさしい子でしたから、母親は、あけてもくれても、ジャック、ジャックといって、それこそ目の中に入れてしまいたいくらいにかわいがって、なんにもしごとはさせず、ただ遊ばせておきました。

こんなふうで、のらくらむすこをかかえた上に、このやもめの人、どういふものか運がわるくて、



ジャックと豆の木

楠山正雄

—
むかしむかし、イギリスの大昔、アルフレッド大王の御代のごことでございます。ロンドンの都からとおくはなれたいなかのこやに、やもめの女

のひとが、ちいさいむすこのジャックをあいてに、さびしくくらししていました。かけがえのないひとりむすこですし、それに、ずいぶんのんきで、ずぼらで、なまけものでしたが、ほんとうは気だての

やさしい子でしたから、母親は、あけてもくれても、ジャック、ジャックといって、それこそ目の中に入れてしまいたいくらいにかわいがつて、なんにもしごとはさせず、ただ遊ばせておきました。

のが足りなくなるばかり、あ
る年の冬には、もう手まわりの道具や衣類まで売って、手に入れた

こんなふうで、のらくらむすこをかかえた上に、このやもめの人、どういふものか運がわるくて、年年も



ジャックと豆の木

楠山正雄 さく

—

むかしむかし、イギリスの大昔、アルフレッド大王の御代のことでございます。ロンドンの都からとおくはなれたいなかのこやに、やもめの女のひとが、ちいさいむすこのジャックをあいてに、さびしくく

らしていました。かけがえのないひとりむすこですし、それに、ずいぶんのんきで、ずぼらで、なまけものでしたが、ほんとうは気だてのやさしい子でしたから、母親は、あけてもくれても、ジャック、ジャックといつて、それこそ目の中に入れてしまいたいくらいにかわいがって、なんにもしごとはさせず、

